

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694100161		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア山科グループホーム(2F)		
所在地	京都市山科区西野山中鳥井町28		
自己評価作成日	平成30年11月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JirvosyoCd=2694100161-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設から3年目を迎え、ご利用者様の中には長期的な入所になってこれられている方も沢山いらっしゃいます。安心、安全であることを基盤に、生活を楽しくいただけるような環境づくりをめざしています。中でも特に家庭的な雰囲気を大切に、個々のペースを崩すことなく、在宅時代と同じような趣味を継続できるように支援しています。たとえば、家庭菜園づくりや、そこで取れた野菜をつかった漬物づくりを行っています。また、歌が好きな方はカラオケをされたり、それ以外にもマージャンを楽しまれている様子もみられます。個々の買い物がしたいや、リハビリを行いたいなどのご希望にも添えるように努めています。個々の活動だけでなく、ご家族様と一緒に参加していただけるよう、クリスマス会や、花見の外泊などを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域との繋がりを大切にしており、加入している自治会では今年度組長を担い、職員が地域清掃に参加したり利用者や区民運動会の見学、敬老会や公民館で行われるすこやか教室に参加し入居前からの馴染みの方と出会うたり交流を楽しんでいます。また利用者のこれまでの暮らしが継続できるように支援し、家事などはできる事を一緒に行う他、草刈りの好きな方にはホームの畑や近隣の畑を借りて行ったり、飲酒の希望には複数の種類のノンアルコールビールを提供するなど、個々の利用者に合わせて支援しています。職員間の関係性も良く笑顔での対応を心がけ馴染みの関係を築き、毎月行うユニット毎の会議や日々の申し送りの中で職員は意見や提案を出し合いながら利用者中心の支援となるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を確認できるようにわかりやすい場所に提示し、職員にも周知している	法人の理念の基作成された事業所独自の理念には自立支援や地域交流、笑顔を大切にした支援への思いが込められ、入職時に説明しフロアに掲示し意識しながら日々のケアに当たっています。会議の中で笑顔での対応を伝えたり、介護計画を立てる上でも利用者のできることを重視するなど、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運動会への参加などを通して、少しずつではあるが地域になじんできている。散歩中に声をかけていただけることもある	自治会に加入し今年度は組長を担い職員が地域清掃に参加したり、利用者や区民運動会や山科義士まつりなどの行事を見に行っています。散歩に出かけた際に地域の方と挨拶を交わしたり、近隣の畑の草刈りの手伝いをする利用者もいます。併施設と合同で定期的に保育園児の訪問があり交流を楽しんだり、ハーモニカ演奏やマジックショーなどのボランティアの受け入れをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への理解は、運営推進会議を通しているが、周知はあまりできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、さまざまなご意見をいただき、報告や話し合いができています。その結果を職員に周知し、サービス向上に努めている	運営推進会議は家族や民生委員会長と地区担当、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームの活動や行事、事故の対策等を報告し、意見交換を行っています。参加者から地域行事等の情報を得て参加したり、今年度起こった災害を受けてホームや地域の状況について情報交換をしたり対策を話し合う等、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	やましな認知症サポート連絡会への出席をとおして、情報交換を行っている	運営推進会議の議事録を区役所に直接提出に行ったり、手続きや事故報告に行った際にはわからないことを聞く機会にもなっています。行政も参加するやましな認知症サポート連絡会に出席し情報交換をしたり、研修案内のあった際には参加できるよう職員に告知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を通して、身体拘束廃止研修を行い、すべての職員へ周知できるようにしている	3か月毎に身体拘束廃止委員会を行い、委員会が中心となり職員研修を行い職員が理解できるように取り組んだり、センサーの必要性や言葉かけなどを振り返り話し合い職員に周知しています。玄関やエレベーターホールはテンキーで施錠していますが、外に行きたい様子があれば利用者に寄り添い別のフロアに行ったり、職員の体制があれば一緒に外に出ることもあり拘束感を感じないよう支援しています。	

ヒューマンライフケア山科グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に6回の事業所内研修で毎年高齢者虐待防止に関する研修は行っている。新人職員の参加は必須としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員しか理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不明な点は納得できるまで質問していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を置き、随時確認、返答をおこなっている。運営推進会議でも意見を伺い反映させている	利用者との日々のコミュニケーションから要望や意見を聞くように努め、毎月担当職員が1か月の様子を手紙にして写真と一緒に送ったり、面会時に伝え家族からの意見や要望を聞いています。飲酒についての希望があり、他の利用者にも聞き複数の利用者に好みのノンアルコールビールを提供したり、カラオケの希望にはレクリエーションに取り入れる等、要望を受けサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に聞く機会を設けていないが、意見があるときは個別に話を聞き、反映するように努めている	毎月行うユニット毎の会議や日々の申し送りの中で職員は意見や提案をしています。会議に出席できない職員には事前に意見を聞いたり、全員に発言できるように配慮し意見を出せるよう工夫しています。職員の提案から法人にあげ、手すりを設置したり冷蔵庫などの物品の購入に繋がることもあります。また少なくとも年に一度は個人面談を行い意見や思いを聞く機会を持っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤怠管理はできている。やりがいなどは随時話を聞き、向上心を持って勤務できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体としてキャリアパス制度を導入し、個々の技術向上を推奨している。また、認知症実践者研修の受講機会をもうけることで、知識、技術向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	やましな認知症サポート連絡会への出席をとおして、交流を行い、ネットワークづくりをおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談はご本人様同席を基本とし、アセスメントを通じてニーズの把握を行い、都度要望に応じてケアプランを作成し信頼関係を築くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様と、家族様との要望のすり合わせをおこなうことで、双方の意見の相違をなくし、同じ方向を向かうケアプランを作成することで関係づくりを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本サービスだけでなく、本人様や家族様の要望を伺い、できる範囲でのサービスを提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気ですぐにともに生活するということを考えてケアをおこなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の些細な出来事を報告したり、イベントへの参加を促すことで、ご家族様とともに、利用者様を支える関係づくりをおこなっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の敬老会などのイベント参加など、できる限り、なじみの関係を継続できるようにしえんしている	以前近所に住んでいた人や親戚、元同僚、店をしていた時の客など、馴染みの方々の面会があり居室やリビング、相談室など場所を選んでもらい、お茶を出すなど過ごしやすいよう配慮しています。自身が仕事をしていた所を訪ねたり敬老会などの行事に参加し馴染みの方と会う機会を作っています。家族と墓参りや法事、馴染みの歯科医院へ行く方や年賀状を書く方もおり、出かける用意やハガキの準備等の支援をすることもあります。	

ヒューマンライフケア山科グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションをとおり、お互いを知り、一緒に笑いあえる関係性を築けるようにしえんしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先への面会などご様子を確認している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の暮らしに努めている。可能な限り希望に添えるよう努めている	入居時に本人や家族と面談を行い、生活歴や趣味、習慣、希望などを聞き取ったり、以前入居していた施設や担当ケアマネジャーからの情報も得て思いの把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中で得られた情報や家族に聞くなど思いの把握に努め、ユニット会議でも本人の立場になって考え話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様への聞き取りや、日常会話を通じて状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や、職員の引継ぎを通じて、全員が個々の状態の把握ができるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや、日々に引継ぎだけでなく、ご家族様、医師、薬剤師などと細やかなモニタリングを行い介護計画を作成している	本人や家族の思い、心身のアセスメントを基に介護計画を作成し、初回は1か月で以降は6か月毎に見直しています。見直しに当たっては再アセスメントを行い、本人や家族の参加を基本にサービス担当者会議を開いています。事前に会議に参加できない家族に意向を聞いたり、往診時の医師の意見書などを介護計画に反映するように取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録簿を基本として、業務引き継ぎ簿や連絡ノートに細やかに記入し、職員間での情報共有を確実に進めるようにし、介護計画の見直しや作成に反映させている		

ヒューマンライフケア山科グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まりきった流れを作らず、本人様の生活ペースに合わせ支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや、ホームセンターへの買い物や、喫茶店の利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の往診だけでなく、家族様との協力の素、入居前の主治医への受診やなども行っている	入居時これまでのかかりつけ医を継続できる事を説明し選んでもらい、継続して受診する場合や専門医への受診は家族の対応を基本とし、家族が行けない時に職員が同行することもあります。協力医の往診や訪問看護による健康管理は月に2回あり、体調不良の際には24時間連携可能で電話でアドバイスや指示を受け対応しています。希望や必要に応じて訪問歯科やリハビリ、マッサージを受けることも可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の提携医療機関へは、些細な変化を逃さず報告し、助言を得るようにしている。また、月2回の訪問看護でも情報の共有と相談をおこなっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、こまめに医療機関と連絡を取り合い、最良の治療のもと早期退院をめざせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期におけるご本人様の希望、ご家族の希望を確認し、対応できる範囲で十分な説明を行い、ご納得いただいたうえで、チームケアの徹底に取り組んで支援している	入居時に終末期や重度化した場合の対応指針にそってホームでできる事等を説明しています。実際に重度化した際に医師の判断の下家族に状況の説明を行い、看護師も含め話し合いながら方針を決めています。家族の頻回な面会などの協力を得て、医師や看護師にアドバイスを受け支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故の対応はフローを作成し、だれでも同じ対応ができるようにしているが、定期的な訓練は行っていない		

ヒューマンライフケア山科グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。地域との協力体制は運営推進会議で協議中	年に2回昼夜を想定して行う消防訓練の内1回は消防署の立ち会いの下実施し、通報や水消火器による初期消火、階段を利用して避難誘導を行っています。運営推進会議で地域の方へ協力依頼をしたり災害時の対策について話し合ったり、訓練の際には近隣の方へ声を掛けています。また、水や缶パン、レトルト食品、懐中電灯などの備品を備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、丁寧な対応を心掛けている。	法人による接遇マナーの研修やホーム職員のトレーナーによる研修を職員全員が受け、親しみやすい言葉遣いで強い口調にならず自尊心を損ねないような言葉かけに配慮しています。不適切な対応があった際には都度注意しています。本人の希望もあり苗字ではなく名前と呼ぶときは家族とも相談したり、排泄や入浴も希望があれば同性介助に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、制約は設けず、自由に希望を伝えていただける環境を作り、自己決定を基本としている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて職員は臨機応変に対応できるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご自身で服を選んでいただいている。季節感がわかりにくい方には、その季節に合った服を選んでいただけるよう助言している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけでなく、食事の用意や、後片付けを一緒に行っていたり、食事を楽しんでいただけるようにしている	業者の栄養士が立てた旬の物や行事食も考えられた献立にそって食材が届き食事作りをしています。誕生日には利用者の食べたい物を聞き買い物から一緒に行き食事作りをしたり、寿司や外食を楽しむこともあり、その際には職員も一緒に食べています。希望を聞き複数の種類のノンアルコールビールを提供したり、ファーストフードやピザなどを買ってくることもあります。利用者には食材を切ったり盛り付け、後片付けに携わってもらい、ぜんざいやホットケーキなどの手作りおやつをすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を記録し、一人一人の水分量を把握している。栄養状態も注意を払い、食事量が減っている方にはご家族様の協力を得て、好きなものを差し入れていただく等の対応を行っている		

ヒューマンライフケア山科グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の助言のもと、適切な口腔ケアをおこなっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ記録をもとに、個人の排せつパターンを知り、適切なタイミングでトイレ誘導を行っている。	全員の利用者の排泄記録を付けパターンを把握し、個々の時間や意思表示、仕草などのサインを見て誘導や声かけなどを行いトイレに行けるよう支援しています。夜間ポータブルトイレを使用し自立している利用者もいます。毎月の会議で個々の支援方法や排泄用品の選択など日々の様子から話し合い決めていきます。支援の結果紙パンツから布の下着とパッド使用に変更した方もおり、自立に向けた支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便間隔を知り、便秘にならないよう、水分摂取や適切な運動を促し、自然な排便ができるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決められておらず、個々の希望に応じたタイミングで支援を行っている。	入浴は少なくとも週に2回入れるように支援し、日中が基本ですが希望により夕食後に入浴している方もおり、希望があれば毎日の入浴にも対応できます。一人ずつ湯を入れ替えゆっくりとコミュニケーションを取りながら入浴を支援し、自身のシャンプーなどを持参する方がいたり入浴剤の使用や柚子湯や菖蒲湯等の季節湯も行いながら入浴を楽しんでもらっています。拒否があれば時間を変えたり言葉かけを工夫して無理なく入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間も決められておらず、個人のペースで休息を取られたり、安眠できるような居室環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と密に連携を図り、職員すべてが服用されている薬について知れるようにファイルを開覧でき、理解できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣向に合わせた役割や、趣味を行っていただけるように支援している		

ヒューマンライフケア山科グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ希望にそった外出ができるようにしているが、職員体制によっては難しいこともあるので、その場合はご家族にご協力いただいている	気候や天気の良い時には毎日散歩に出かけたり、畑の草刈りや外気浴を行い日常的に外に出る機会を作っています。また地域行事に参加したり季節毎に初詣や花見に行ったり、動物園や水族館、クリスマスのイルミネーションを見にユニット毎に出かける等の外出支援をしています。外出行事は家族にも声を掛け一緒に出掛けたり、家族と外出する方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方は財布をもっておられ、一緒に買い物に行くこともあり、ご自身で支払っておられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や、電話は時間帯により希望に応じている。夜中など、時間が無理な時以外はご自由に連絡できるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう、時季に応じてレイアウトを変更したり、気温調整を行い、常に清潔で快適に過ごしていただける工夫をしている	共有空間にはクリスマスツリーや生花、花粉アレルギーがある方がいる場合は造花を飾り、季節を感じられるように配慮しています。毎日行う掃除は利用者も一緒に行うこともあり清潔を保ち、換気を行い加湿器や空気清浄機を置き温湿度計や体感で温湿度管理をし、快適に過ごせるよう支援しています。ユニット毎に少人数や一人で過ごせるソファを複数置きテレビを見る等思い思いに過ごせるようにし、また利用者同士の関係性にも配慮しテーブルの配置換えをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は決めていない。自然とご利用者様同士の関係性が築けて、お友達同士隣に座られたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力で、なじみの家具や、小物を持ってきていただいて、居心地良く過ごしていただけるようにしている	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう説明し、タンスや椅子、机、大切にしている仏壇などを持参し家族と相談しながら配置し、利用者が居室で移動しやすいようにソファの向きを変える等の工夫をしています。趣味の編み物道具や大正琴などを持参したり自身の著書を置くなど馴染みの物を傍に置き、その人らしい居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、居室など、すぐに場所がわかるように写真やイラストを貼るなどの工夫をしている。見守りは行い、安全で自立した生活が送れるように支援している		